

# 水道事業

区 分	令和5年度	令和4年度			算出方法
		久留米市	全国平均	類似規模平均	
<b>長期的健全性</b>					
1 固定資産構成比率(%)	87.0	86.6	88.8	87.9	$\frac{\text{固定資産}}{\text{固定資産} + \text{流動資産} + \text{繰延資産}} \times 100$
2 固定負債構成比率(%)	16.8	17.9	21.4	24.7	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資本}} \times 100$
3 自己資本構成比率(%)	79.2	78.0	74.3	71.3	$\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}}{\text{総資本}} \times 100$
4 固定資産対長期資本比率(%)	90.6	90.3	92.8	91.6	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100$
5 固定比率(%)	109.9	111.0	119.5	123.4	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}} \times 100$
<b>短期的支払能力</b>					
6 流動比率(%)	324.9	327.9	259.6	297.5	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$
7 当座比率(%)	322.9	318.4	246.9	281.6	$\frac{\text{現金預金} + (\text{未収金} - \text{貸倒引当金})}{\text{流動負債}} \times 100$
8 現金比率(%)	282.1	285.3	221.7	251.5	$\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$
<b>資産・資本の有効利用等</b>					
9 自己資本回転率(回)	0.1	0.1	0.1	0.1	$\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{(\text{期首自己資本} + \text{期末自己資本}) \div 2}$
10 固定資産回転率(回)	0.1	0.1	0.1	0.1	$\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{(\text{期首固定資産} + \text{期末固定資産}) \div 2}$
11 当年度減価償却率(%)	4.1	4.1	4.1	4.2	$\frac{\text{当年度減価償却額}}{\text{固定資産(有形+無形)} - \text{土地} - \text{建設仮勘定} + \text{当年度減価償却額}} \times 100$
<b>利益率・収益性</b>					
12 総資本利益率(%)	0.7	0.8	0.8	1.0	$\frac{\text{当年度経常利益} - \text{当年度経常損失}}{(\text{期首総資本} + \text{期末総資本}) \div 2} \times 100$
13 総収支比率(%)	106.2	109.1	108.8	110.1	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$
14 経常収支比率(%)	107.3	108.8	108.5	110.0	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$
15 営業収支比率(%)	101.7	103.4	97.4	97.9	$\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{営業費用} - \text{受託工事費用}} \times 100$

# 経営分析表

区分	令和5年度	令和4年度			算出方法
		久留米市	全国平均	類似規模平均	
<b>企業債関連</b>					
16 利子負担率(%)	0.9	0.9	1.4	1.3	$\frac{\text{支払利息} + \text{企業債取扱諸費}}{\text{企業債} + \text{一時借入金}} \times 100$
17 企業債償還元金対減価償却額比率(%)	81.1	77.4	68.4	71.9	$\frac{\text{建設改良のための企業債償還元金}}{\text{当年度減価償却費} - \text{長期前受金戻入}} \times 100$
18 企業債償還元金対料金収入比率(%)	24.8	23.6	21.9	22.2	$\frac{\text{建設改良のための企業債償還元金}}{\text{料金収入}} \times 100$
19 企業債利息対料金収入比率(%)	1.7	1.8	3.6	3.8	$\frac{\text{企業債利息}}{\text{料金収入}} \times 10$
20 企業債元利償還金対料金収入比率(%)	26.5	25.4	25.6	25.9	$\frac{\text{建設改良のための企業債元利償還金}}{\text{料金収入}} \times 100$
21 企業債残高対給水収益比率(%)	186.2	195.2	253.5	279.1	$\frac{\text{企業債現在高}}{\text{給水収益}} \times 100$
<b>職員関連</b>					
22 職員給与費対料金収入比率(%)	13.2	11.4	11.4	12.3	$\frac{\text{職員給与費}}{\text{料金収入}} \times 100$
23 職員一人当たり営業収益(千円)	75,450	76,590	67,625	61,227	$\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{\text{損益勘定所属職員数}}$
24 職員一人当たり有形固定資産(千円)	526,236	531,510	545,190	478,128	$\frac{\text{期末有形固定資産}}{\text{損益勘定所属職員数} + \text{資本勘定所属職員数}}$

(備考)

- 1 総資本は、負債と資本との合計額を用いて算出している。
- 2 No.9の自己資本は、資本金、剰余金、評価差額等及び繰延収益の合計額を用いて算出している。
- 3 No.17の企業債償還元金対減価償却額比率は、国の算定式にあわせて、令和5年度より、分母を「当年度減価償却費」-「長期前受金戻入」として算定しており、過年度分についても、同算定式により算出している。
- 4 No.22の職員給与費対料金収入比率の算出要素である職員給与費は、損益勘定所属職員に係る給与費を用いている。
- 5 類似規模平均欄の数値は、本市と類似規模の都市である給水人口15万人以上30万人未満の市の水道事業者の平均値を表している。
- 6 全国・類似規模平均欄の数値は、「地方公営企業年鑑」(総務省)の「第2編 第3章 1.水道事業(19)水道事業集計表(法適用)」の数値を用いている。